

## 今月のHOTニュース

# 住宅火災に注意しましょう

総務省消防庁HPの「消防白書」によれば、平成23年中の住宅火災による死者数(放火自殺者数等を除く)は1,070人であり、平成17年の1,220人をピークとして減少しているものの、依然として1,000人を超える高水準が続いているとのことです。今回は、住宅火災の現状と対策についてまとめました。

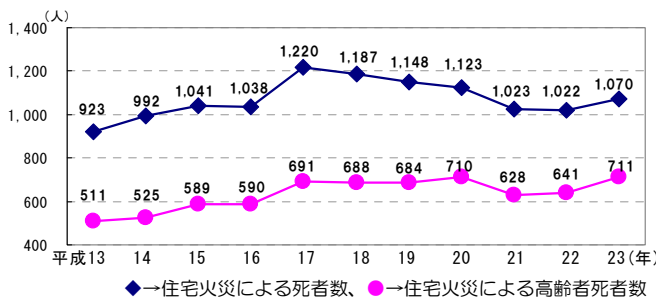
建物火災件数 26,795件

住宅火災件数  
14,973件

住宅火災以外の建物火災件数  
11,822件

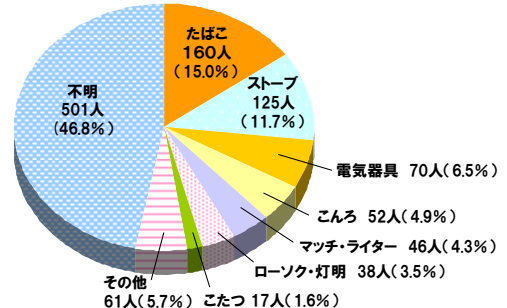
平成23年中の建物火災の出火件数を火元建物の用途別にみると、住宅火災が最も多く、全体の55.9%を占めている。また、建物火災のうち、放火を除く住宅火災の件数は、13,673件となっている。

### ◆住宅火災の死者数の推移(放火自殺者等を除く。)



平成23年中の住宅火災による死者数(放火自殺者等を除く)は1,070人であり、前年(1,022人)と比較し48人の増加(4.7%増)であったものの、1,220人を記録した平成17年と比較すると150人の減少となっている。一方で、65歳以上の高齢者は711人で、前年に比べ70人(10.9%)の増加となっており、住宅火災による死者数(放火自殺者等を除く)の66.4%を占め、4年連続で6割を超えている。

### ◆住宅火災の発火源別死者数(放火自殺者等を除く。)



平成23年中の住宅火災による死者(放火自殺者等を除く)を発火源別にみると、たばこによるものが160人(15.0%)で最も多く、次いでストーブ125人(11.7%)、電気器具70人(6.5%)の順(不明を除く)となっている。また、65歳以上の高齢者では、ストーブによるものが102人(14.3%)、たばこ85人(12.0%)、電気器具51人(7.2%)の順になっている。

参考: 総務省消防庁HP/<http://www.fdma.go.jp/index.html> 消防白書 平成24年度版

### ◆住宅防火のポイント

火災は一人一人の心がけと、家族・ご近所の協体制度が必要となります。日ごろから、万が一の場合の協体制度を心がけましょう。

- Point1** > 1階、2階に1本ずつ住宅用消火器を置く\*
- Point2** > 内装材は火を広げにくい不燃性のものを使う。
- Point3** > 避難の経路はいつも整理整頓をする。
- Point4** > 家のまわりに燃えやすいものを置かない。
- Point5** > ご近所の火災警報器の音にも関心を持つ。
- Point6** > 町内会などで実施される防災訓練へ参加する。

\*床から1.5m以下の低い場所に置く。水や油で濡れる位置に置かない。使い方を訓練しましょう。

### ◆たばこ

たばこの火は700~800℃もの高温です。たばこの火は消したつもりでも完全に消えないことがあります。

- 注意1** > 灰皿にはいつも水を入れておく。
- 注意2** > 吸い殻はこまめに捨てる。
- 注意3** > 寝たばこは絶対にしない。
- 注意4** > 灰皿にたばこを置いたままにしない。



### ◆コンロ

台所での火災原因の最も高いのがコンロです。また、高温になると油自体が発火する天ぷら油火災も注意が必要です。

- 注意1** > コンロの側を離れるときは必ず火を消す。
- 注意2** > コンロのまわりに物を置かない。
- 注意3** > コンロに衣服を近づけない。
- 注意4** > 古くなったガスホースは使わない。
- 注意5** > コンロは壁から離して置く。
- 注意6** > コンロは身長に合った高さで使う。
- 注意7** > 天ぷら油の加熱に注意をする。



### ◆ストーブ

ストーブは直接火を取り扱うだけに危険度は大変高いものです。正しい使い方を身につけて、安全に心がけましょう。

- 注意1** > ストーブをカーテンや家具に近づけない。
- 注意2** > 洗濯物をストーブの上に干さない。
- 注意3** > 部屋に誰もいないときは、ストーブを必ず消す。
- 注意4** > 石油ストーブは確実に火が消えてから給油する。
- 注意5** > ストーブのまわりにスプレー缶を置かない。
- 注意6** > シーズン前に点検整備を行う。
- 注意7** > ストーブをつけたまま寝ない。
- 注意8** > 灯油であることを確かめてから給油する。
- 注意9** > ストーブに点火したら炎の調整・確認をする。

### ◆コンセント

日常なかなが目落としがちなのがコンセント。発熱して火災の原因となることがあります。

- 注意1** > たこ足配線はしない。
- 注意2** > ときどきプラグを確認して清掃する。
- 注意3** > 電気コードをカーペットや家具などの下敷きしない。
- 注意4** > 古くなった電気コードは取り替える。
- 注意5** > コードを引っばって抜かない。
- 注意6** > アイロンやドライヤーは使用后プラグを抜く。



出典: 住宅防火対策推進協議会HP/<http://www.jubo.go.jp/>